

妹をよよ子信お子徳きみきて松平の城主財と播州明石
子移りおまく漂ひ加納城子移す瀧高もまたこれ子徳す
十一歳少くて孫をよ子幼より聰明のきえあう眼中
雙眸ふくく炯きまこと電の如く見す。一時もやく書を讀
るよ一日の課業精むと一寸十絆俱子がち丈を假す。雄
蓮の氣象あり紳人嘗びく奇重とす。長とありて精思
力踰いきうちも意をかへ。蓋その畫筆ゆれよう。さ
るとかくがどく十六歳の財書をかてある。その考を誂
えなれど、齎れらまきまふよりて退き去り母子ともよみ紅
戸す。赤い芸北郷子隱れ住み。后を修め徳を積み。あも
宋学をよき。戲瀧洛園周の書を通じ且修韻の事をえて

世子きみえり美能の刺史柔山一尹の君と玄信と小
學く利文とく丈を當て武を極め仁厚義烈。約
ひきの英傑卓伟たると世子と并び瀧高弟子
訪訊。利文の寵遇もふれずとあり。利文とく丈と
く病子聞く。卒す瀧高の嘆き大き。かば道を談す
とふ友あく。兵を説く。よし。死へ。悲痛。きく。あく。け
至後年城を伏見竹田子遷れ居て終子病す。よりて。分ま
く。アタマ。され。ハ伏見の東山。あ。養春寺。子葬る。財小元禄三
年十月廿日。あり。享年五十四歳。瀧高世をある。日出文
きよ。考。お。就。う。謬。り。れ。く。瀧。操。名。節。を。も。行。き。だ。享。子。希。世。の
偉。人。と。り。う。そ。の。著。べ。こ。ろ。兵。要。隸。二。二。卷。授。考。集。

解一卷控み餘著述と多くて古今の煙勝するもあ
ろと聞き心癡せ教やまうとせ貳ふすまことすまうに
澤高の兵法を傳ふるの佐枝平金喜川忍高の二人をそ
の巨擘たり

美成三今世子長沼流と称す多岐ハ澤高の義よ
里也ア佐枝喜川の二派ありとその術を学ぶ者
世子あおねくさくと主要源子攻城ありとち儀子
きも澤高の卓々とさくとそれ已をりと余お
すが一攻も乃様より防ぎやうがハ仰のく
きてうあんあんあれどもその流子主要源補苴兵要
續源子の書ありてや誠を説りうほ進の益あくサ

くは予勤て三ヶ流をひく門戸を張りのいと
一とくとく辨説ありて活機を講ずるハ云々子キ
コニサ小二三とあれ通義社乃拙小うちとて師術の精
練あるぞ肝要あるともど古戰軍書子らそつ子
て熟讀すよハ志ア

佐枝政之進

佐枝政之進名ハ平金喜川と号す平金父子おもてこ
ともやく年いまで二歳禄を獲ぐとあまく母の養育す
よく成立す澤高子住みて古戰の隣士福田致秀と云人
子役事とく經を手す書をよみ年十五歳にて江戸
子来り桑山一平の元仕へ禄を食ひての時長沼澤高

の内うちとあり、兜兜の事ことを鑑かがみつと知して意いだ遙とお
そ北きた蘆あし奥おくを窺くわむよしれ、一平いちへいの志し率すこされその翻ひん
く柔じゅう山さん家け絶たたえすやよしれ、ある候とき子こ審しんす。被はれ遇まつ
とす篤あつく数いく年のほ君臣きみの物ものを、功こうあくく老職らじゆ子こ鷦じゆ
にその職しょく子こ居ゐとす。七年しちねんある附つき紳じんを上あげて、古古小
姓なまひ不遇ふめいをゆう。されば、せきく辭さりきて、浮化うきの侯こう子こ仕しを
と三年さんねんある骸骨がいこつを乞こひく、藥廬やくろ子こ菟とう事こと。と、自じ志しを
や多く年月ねんげつを送おもてらう。うて著あつすことを、極きわ奇き集しゆ或も
同どう三さん考かん再さい辭さり一いつ考かん藥やく譜ひ苦くる械けい制せい二に考かん孫そ子こ管かん轄かく七しち考かんあ

富川忍翁

宮川忍翁みやがわにんぐあるのち、官腰くわい尚古じょうことのい事ことを歴へりて、シテ着き

の人ひとあり、本府ほんふ小仕お、武事ぶじをりて、禄城ろくじやう金かねあり、故ゆゑあり
て職しょくを辞さりて、江戸えど子こ事こと、長宿ながしゆ寓すて、多活たがくを享うけ
ぶ終おひこす。移うつ是これ書か小移熟おひきじゆりて、海うみ能のう前久くら御米ごめい子こ居ゐを移うつ
一ひと住すす。人ひとあり、聰慧ちゆうゑいやよ、百技ひゃくぎ子こ通とおす。尤ただ興おき有る
才才能子こ精ひん一ひと且また經術けいじゆを好すみて、夏井なつゐ懐いだ育いくと友ともす。善よ
道みちを講こうす。と、意いいだ、眼疾がんしきを患うなす。よりて醫いを
尋たずね、又また前まへ福良ふくらう子こ與よ、治療りょうりす。と、之うちをさくらふ。その驗たしか
あく遂ついす。醫い者しゃと、外ほかも、と、ソド。經教授けいじゅうじゅと、之うち生う計けいす。
門弟子もんじのと、多く、忍しのぶ醫い者しゃたゞとも、記き脹ぼの強きよ世よの
此こ翁おきなの總ぜう候う。かくして、と、小こ謹論きんりんす。よろこびをゆき

て采地さいちを賜たまり、さよ年さよ、吉川恩高尚古と改め称す。伊長
崎子従きて、ちえ姫きみ成子就く、遁甲の術を掌あらわし、受け再び
筑前少すくなり、享保元年十一月二十七日没す。著うちて、
周易記三十卷、妹川長久等二戦記一巻あり。

周易記三十卷、妹川長久等二戦記一巻あり

長崎姫きみ

肥前長崎子名を姫ひめと、女子あり、その父ちち、鑄物つちものをりく
業おとむと、やう、男子あり、唯姫娘ひめむすめあるのみ、ひきをすく、鎔工ゆきわ
の造作つくりをりく、姫娘ひめむすめ傳つるへ、姫娘ひめむすめうつく、絶技ぜき有名めいめいあり、そ
れんとあり、豪放ごうばう不羈ふきあり、酒さけを好すき、小丈夫こじょうと、文
正ぶんじやう遊び、家産けさんと、貿ぼー、それとも、生計きみを、妻めぐわとせんたま
く、好車こうしゃの者あり、贈さしだめ、數十金すうじんをあらそ、銅器どうきを、製せいせん

むと、あれバ先先の事ことをり、酒さけを賄あきらめり、御黨おどな乃
老お、残棺まか集あつ、日毎まい、小宴樂えんらく甜飲えんげんし、浮游うきよ、龍りゆう
製せい作さくすと、銅とう色いろ文采ぶんさいの體たい、巧技こうぎ致賞しげんすと、博
り、そのう、豫章えんじょう某執政もしやうせい、辭じを、辭じめ、年の姫娘ひめむすめ
て、香爐こうろをつくり、わう、一年強よとされ、ども漫まん魚うおと、
さくす、造つくり、色いろも、あく、ルる、と、すまう、ちち、と、やく
豫章えんじょうの役えん、も、う、べき、財ざい、あれ、巴は、御吏ごり、を、く、保ほ、
造つくり、と、幾いく、御ご、と、香爐こうろ、成なり、と、ソ、ども、い、あ、ま、よ、と、う、敢あ、と、進たまつ、
より、と、御吏ごり、人多く、率ひき、と、そ、の、家いえ、と、そ、う、と、そ、て、嚴おごまか
責せき、り、そ、う、と、ソ、と、姫ひめ、ハ、い、ま、ゆ、と、言い、す、爽さわ、と、豪放ごうばう、
お、甚まことに、う、き、あ、財ざい、と、香爐こうろ、と、業うつ、お、き、く、烟たば

仲あらへて改りてあるあ居るへば夙致の如き多
はすとてある斧そのを持ち一声のこゑとどめすお辞き
捨て移を但彌く東歸の日至りとぞと香爐こうろハつひ
子調みのばずやんま義よしの人の勢ひありてそのやすりを奪ひ
ざらとぞの傍わきへサクシテ

賣酒郎

賣酒郎さかうらうハ何れのまろせんとあるとぞあべ物ものの姓氏を
も詳まことすせず自稱じきみといふ喰くことつゝあるひハ彦宣郎ひこてんろうと通
稱す年三十歳さんじゅうさいぢづくと京師きょうし白河しらかわ北西街せいがい子僞居よしゆ
一書畫しょが及び篆刻えんこくを善く一書いし手て傭書ようしょとぞとそれ
母やまきを養なまひとども生計うきと乞ねて賑贍なまんすとあそび

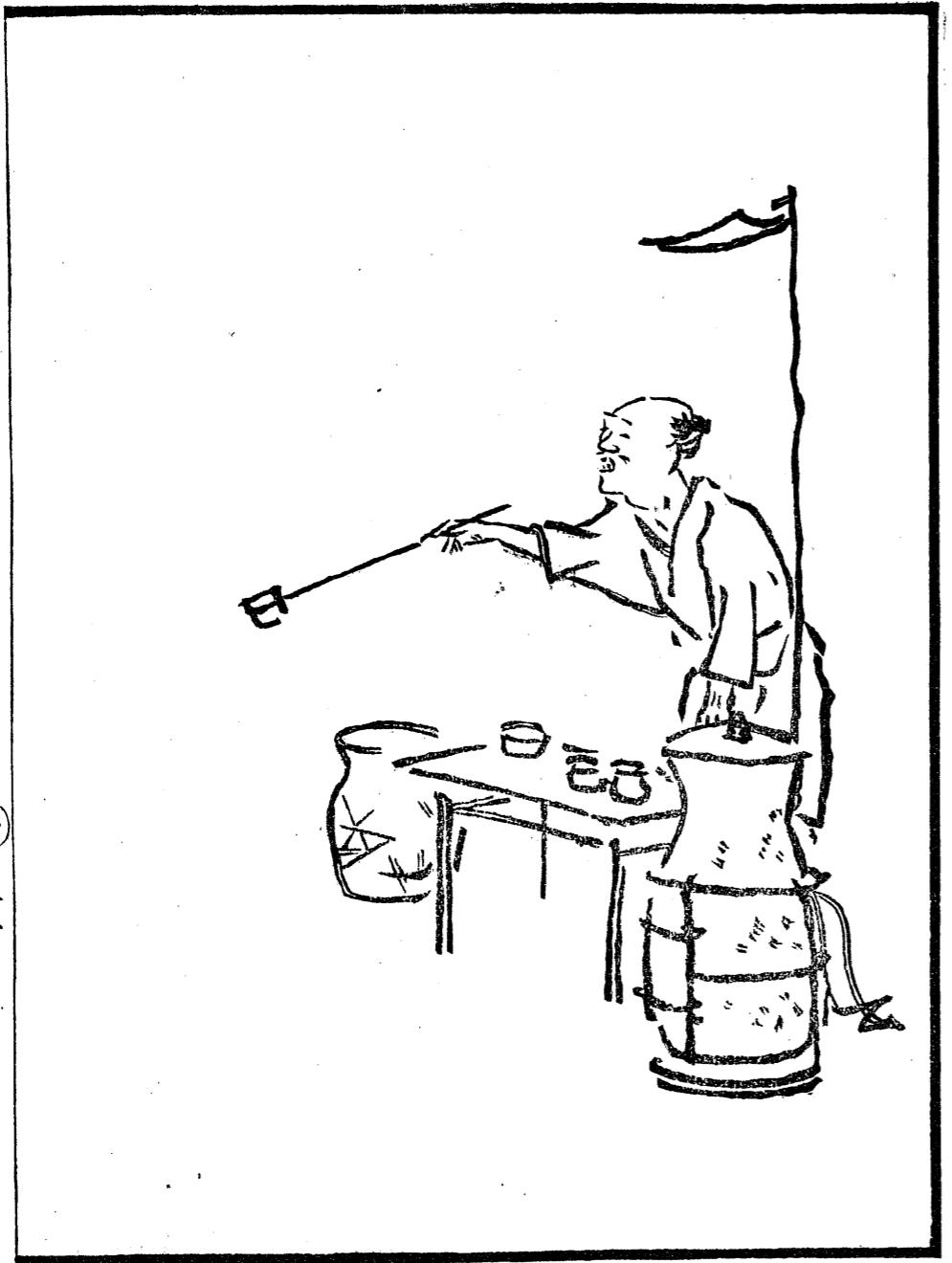
こゑす於く自嘆じたんしてゆりく文雅ぶんがハすがむち孝養こうやう
小礪さかりあり我わをと内家うちいえ比ひそれそされハ酒さけを售うけ
て産業さんぎょうをうく親おやを養なまひ且安逸あんいつあくまくむすすハ志
うどそひひくやくて素事すご中の書画しょがをとくらむ散鷲さんじゆ
そ陶器とうき酒具しゆぐを購あひ求めすす終まつ舊癖きゅうひき依然いんげんとしてそ
の買あふところの蓄皿たまごを唐山舶來とうさんぱらい呂物ろものとてす酒さけ
ハ滋市しじ乃美醸ひきんを傳つひくとふ七重しちじゆの納のりをせうひ
瀉れくれ巴ばの味みひ傳芳たんほうふく烈れつあくべ醜せ意い甚きんく快こころ
うそ者程あらへやくくの内簾のれん子竹碎錠ちくさいの三大字さんだいじを書か
外ほか小招牌さくばいを掲かかげてそ此面おもて此肆下し物もの一則いつそく漢書かんじよ二
則つづき雙柑さんかん三則さんそく黃鳥こうとり一聲いつせいを落おちたくられハ好車こうしゃの年

サツニ子徳て宴を催すあま子トシテ来賓たゞだされ
ごとこの價ハ内比多寡子あまて羸利を食ムズ毎歳
春の半子トシテハ揚花の盛用トあまて早シト大考酒
善セ病携ひて東山子座を設ケ嵐山の江畔子行駕
あま秋の未あれテハ重葉比紅も織ヒカヒ赤縞携金小
席をひき臨川後院せあま子妻ト有キアマ般若湯の
三字をあまハ笑わむト有アされどもその内比格好トモ
あま子ハあまの就く飲ムとメテふ丈人オ子一
風流を蒙テ詩を賜ヒテと詠してあま子賜る事の多
尼ハ子の詩文をあま子妻ヒカヒ賓客の觀子徳ルとぞ

美成ミーの妻角原の傳ハ芥川彦三草の記ト
たまふかノソの記筆れ未ト論ジシハ二年よ
モ先キト妻妻角原トシテ希世の名人アマ妻角原
ハ子孫人を慕ひルトモヤ抑奇をこめニ名を約の
人氣ちて輕佻恥をき輩アマ爾モハルト如
至雅あるを蒙テ傳をつるアマニルト賜ムトモ

ノ

又ミ般若湯ハ内之異名アリ左坡志林トス
カト僧伽の證語子歩アマニ相脾子高シ下
物ハミ子故事子接ハアト拂ズシテ世說言語子戴
申志春日雙柑斗湯を携入接する人仰く手致



と向ふる臺へと往まく 黄鸝の声を聴くに至り
耳の針砭詩腸の鼓吹ありとソア 同夢爽子蘋
子美豪放不羈ありと酒を好ひと外舅杜祁公
が家子在りと毎夕讀書すすむよ酒一本を限りと
す ふゆく物ひぢひて密子これを見たむか子
美津書張は侍をよきあくとが良与客粗撾
秦白雲帝とひふ傳すひくと嘗を極るゝ惜いと
數ひ中りとて遂す一大白を燭引す又よきと
良弓始弓起下邳と上會於留此天以授陛下と云
不取く又事を捨て君臣のお運その難きこと
かくれ如きと復一大白を舉ぐ公笑て云う

の如き下物あらび一年もまことにすまうと早うだ
といふと又まう黄鸝せ声已て世説すありと
つゞけりと明の本源漢う早夏示殿卿七絶

子長夏園林黃鳥來百花春乃復新開主人

把湯聴黃鳥夷鳥一聲乃一杯とす

義僕元助

志穂義士序是源重方うち房の家僕を元助と之の幼
ときよりうち房の家を富ひれて今とあり篤厚勤行み
る車を拵えと甚ざつとありうち房志穂と名の日子
あくびつゝ女婢すとしむ暇をとむを以てされども
えゆひとく筋はまくおどり高房す往ひて江戸すあり

朝夕薪水の勞ととをば出入車を多くて精力と
ましニ毛を畫すと昔日子勝れたりたまゝ因縁とぞ
小姓を報やうの日本迫りへりある旨申すと嘆ひくシテ
ハ汝うう園院の用仕合へとすむ勤めうじてや頃す
3と外あらばやかて仕官を求めて江戸すありとちゆく
二年生てアラモトのうち何うれ費用子書金殆どす世
のあくをあそづぐともひめくす小諸侯子士を聘
すまく列國玄を詔きれハとくよかくても仕官の所
も絶うう薦舉の令あらきハ四方子旅歎
多くの國の古文と手をお識れすすとこうと傳言
こうやすく生涯と終んとをとぞおりんとぞのやう

忍びて身をすまうべへこれ名主の意を拂ひあくべや
 とくばニ助又ト賊の僕立食ひより是ト易ヘシ
 食立つてゆきてゆく君の墨トセドちく僕とども子起
 居せんとのたゞあくべたと居を別子すと君を離
 きあみせんとゆひよどと勤くふはきふとくぎ
 ツクされ、玄房もゆうべし、渝ル花もんを拂
 あくまき氣色ハアトムリ立二子手捨ニ玄房號せん
 すれ陽り想うて詞あるふ汝事多手々つて
 事あす汝う事をすくやまく好語をあて暇
 ときあうと寝うきまよハあうのあす告うの妙子
 一至古事年赤穂を退きのほは、平生の所為舊財子裏

あれど汝子暇をもすむかうこまくよつ先の生計のと
 あそとゆくべへたこまうよほせぎハ景キでの勤仕内
 労すおめえとあきのこま難とひづるをなまじどす
 元助のうづきと改めのゆすハ何事がや僕妻君
 の妻子をあつて行れば君の不幸ハ即ち不幸にて候
 うまく君をすとまあや化のあやす仕とて我
 警ひあくべあくべられバ君の徳くそろへ僕のあま方つも
 猛ひあくんう織席掴腹の力を盡して自殺の行
 らんと之を言房三汝の志へ見れづきうる難ふよあくべ
 又花今四方子糊口へりづ身す世子齋戒らきづるさく
 くみ況んや汝とまふ人の食客たんとせひよあくべ汝

あつされよやく、因窮元氣をひきかへて、汝女が勤隸せしめを爲する。そ
うそ一言いふことすらすまはず、一言いふことすらすまはず、眼まなこもさるれば、速はや
きとつとつと走はして、不動淨法ふどうじょうほう。僕幼わらわく、君きみよりうへて、已ま
子十有餘歲じゅうよしゆくて、すまづく君きみの多おほき事ことと、見えぬを
らううことをうけぬを、ハ僕わらわすまると、をやせじ、うる君きみ
今日きみの眼まなこと、まづ、趨ちり行ゆく、すま房すまぶのゆかと、あくとあぐよ
つまづひきふ車くるまのやうを、御みひらきすやうと、自殺及じさいんと、セーブ
あるまども、うれしと、咎とがむき、バ、畜生ぶつぶつの、ハ君きみの、東子とうこ、
何なにぞ、不思議ふしきを、あらと、咎とがむき、バ、畜生ぶつぶつの、ハ君きみの、東子とうこ、
あらと、うれしと、咎とがむき、バ、畜生ぶつぶつの、ハ君きみの、東子とうこ、
て死死めまく、僕わらわと、君きみの、君きみの、世よす、あり、誰だれが、死死よう
お生おきなを、拿なさんと、すま房すまぶを、あらと、隣隣人うじんを、隣隣人うじんを、
すま房すまぶを、あらと、ゆかく、告おげ知しるす、あく、前まへ、
辭さを、化車かくるます、託たます、あく、恨うらみを、あられと、復讐ふくしゆの、す
と、告おげ、あらせぬ、ハ、不助ふすけの、まろこび、いぢんいぢんく、すく、有難うれ
も、うう、密車みつくるまを、え、如ごく下くだ賤せんす、あら、ゆき、と、よ、恩恩えんえん
翁おきなの、別べつわざと、ね、仰あおぎみ、がく、ハ、死死を、すら、不せんと、よ
す、言房ごんぼう、うねく、大不君だいふくみの、我わよ、う、不せんと、戒い�の、れて、草引くさひ
の外ほか、奴僕やつぱを、浮うきと、を、許ゆさ、うれ、ハ、汝汝一人ひとりの、故ゆゑを、り、衆しゆ

と、ちよ、と、あく、自じやきて、因窮元氣、都つゝ軍ぐんと、も、あひ、あく、駿しん馬まを
誇ほり、て、いづ、かやんと、ソ、だ、座ざを、擧あげ、て、ま、手て、彼かれの、志しを、威いド
あられと、ま、仇かたを、擊うの、と、告おうと、よ、あやまち、の、
いづ、ま、言房ごんぼう、不助ふすけを、嘆なげひ、因窮元氣と、あら、ふ車くるま、甚ごく密ひそあくと
よ、と、汝汝が、志しを、あく、やむ、と、あく、告おげ、知しる、す、あく、前まへ、
辭さを、化車かくるます、託たます、あく、恨うらみを、あられと、復讐ふくしゆの、す
と、告おげ、あらせぬ、ハ、不助ふすけの、まろこび、いぢんいぢんく、すく、有難うれ
も、うう、密車みつくるまを、え、如ごく下くだ賤せんす、あら、ゆき、と、よ、恩恩えんえん
翁おきなの、別べつわざと、ね、仰あおぎみ、がく、ハ、死死を、すら、不せんと、よ
す、言房ごんぼう、うねく、大不君だいふくみの、我わよ、う、不せんと、戒い�の、れて、草引くさひ
の外ほか、奴僕やつぱを、浮うきと、を、許ゆさ、うれ、ハ、汝汝一人ひとりの、故ゆゑを、り、衆しゆ